

本よみくり堂

R・クローナー著、福井一光訳

『自由と恩寵』

(教文館、1602円)



森本あんり

神学者

東京女子大学長

「これほどまでに苛酷な運命を生き抜いてきた人が、私たちの上で猛り狂った嵐にまったく襲われなかったかのように平静に見えるのは、なんと悲劇的なパラドックスであろうか」——浩瀚な哲学史を著しながら、ナチスに故国を追われ、ポケットに1ペニヒもない状態で亡命したR・クローナーのことである。人間は、限界において自由を知り、必然性に抗して運命を引き受ける。本書は、晩年を迎えた著者が、穏やかな日だまりのうちに恩寵の人生を振り返り、哲学と神学の相即を語る小著である。傷ついた心が静かに癒やされる。